



第41回マーチングバンド中国大会  
高等学校・一般の部

音楽と視覚の調和・演奏の調和

**作品の全体的調和**

ショー全体のコーディネーションを音楽的な要素と視覚的な要素との結びつきをふまえて総合的に判断する。

**作品の解釈と表現**

ショー全体の解釈と表現を音楽的な要素と視覚的な要素の結びつきをふまえて総合的に判断する。

- ・コーディネーション ショーの流れに「緩急」「強弱」「喜怒哀楽」や「起承転結」を感じさせる変化があるか。  
また、無理のない流れがあるか。クライマックスが表現されているか。  
各セクションの組合せに調和や変化が感じられるか。
- ・音楽と視覚の調和 音楽と視覚が調和されているか。
- ・独創性と多様性 作品が独創性に優れ、なおかつ多様性に富んでいるか。
- ・表現の幅と質 作品が意図するところを理解し、強弱や緩急、喜怒哀楽などの表現に幅をもたせているか。  
また、それらを高めようとしているか。
- ・ミュージシャンシップとショーマンシップ 観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。  
また、観客とのコミュニケーション（伝達）が良好か。
- ・完成度 内容を把握し、ミスやエラーのない演奏・演技になっているか。表現の幅と質が作品の意図するところを理解したものとなっているか。また強弱や緩急、喜怒哀楽などの表現が完成したものとなっているか。

| 段階1(BOX1) | 段階2(BOX2) | 段階3(BOX3) | 段階4(BOX4) | 段階5(BOX5) | /100 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------|
| 努力を要す     | ふつう       | 良好        | 優良        | 優秀        |      |
| 60未満      | 60～69     | 70～79     | 80～89     | 90～100    |      |

**演奏の音楽性**

演奏の楽性がいかに優れているかを、管楽器・打楽器の両面にわたって、演奏者全体もしくは各セクションに関して判断する。

**演奏の質と技術**

演奏の質や、全体的な技術がいかに優れているかを、管楽器・打楽器両面にわたって、演奏者全体もしくは各セクションに関して判断する。

- ・表現力 音楽的表現がいかに幅広く多様で音楽の内容をよく理解しているか。
- ・フレージング 曲想に合ったフレージングがなされているか。統一されているか。
- ・ダイナミックレンジ 強弱が適切かつ統一されているか。その範囲がいかに幅広いか。
- ・バランスとブレンド バランスとブレンドのコントロールがどのように行なわれているか。
- ・テンポ テンポの維持・コントロールがどの程度正確かつ適切に行なわれているか。
- ・全体的な音質 全体的な音質が美しいか。
- ・チューニング チューニングが的確になされているか。
- ・イントネーション イントネーションがどれだけ揃っているか。
- ・リズムコントロール リズムコントロールが適切にされているか。
- ・タイミング タイミングが正確に揃っているか。
- ・フォーカス（音の方向性・指向性）フォーカスコントロールがどの程度適切で、かつ揃っているか。

| 段階1(BOX1) | 段階2(BOX2) | 段階3(BOX3) | 段階4(BOX4) | 段階5(BOX5) | /100 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------|
| 努力を要す     | ふつう       | 良好        | 優良        | 優秀        |      |
| 60未満      | 60～69     | 70～79     | 80～89     | 90～100    |      |

音楽と視覚の調和・演奏の調和 審査基準(クワイアテリア)

|  | 作品の全体的調和   | 作品の解釈と表現  | 演奏の音楽性   | 演技の質と技術 |
|--|--|---|--|---------|
| <p>・作品全体において調整が行き届いており、違和感はない。</p> <p>・作品全体の構成、処理は、バラエティーに富んでおり、部分的な処理にも多様性が感じられる。</p> <p>・色彩的にも豊かであり、かつ音楽との整合性も高い効果的である。</p> <p>・場面ごとに多くの、聴かせ所や見せ場があり、それらが大変うまくなめくられており、非常に効果的である。</p> <p>・作品全体を通して常に平均的なレベル以上の効果が生み出されており、長い時間観客を引き付ける事に成功している。</p> <p>・ほとんどの場面で、解釈、処理が独創的かつ高度であり、それらが効果的に結びついている。</p> | <p>・音楽・演技者による作品の理解は充分かつ高度で、観客とのコミュニケーションは常に円滑で密度も高く行われている。</p> <p>・ほとんどの場面で音楽・演技者の集中力が非常に高く維持されており、観客は作品の意図を充分理解し楽しむ事が出来る。</p> <p>・音楽・演技者による感情表現は繊細かつ、質的にもバラエティー豊かに表れ、観客を度々驚かし感動させる。</p> <p>・ほとんどの場面で音楽・演技者のコミュニケーションやシヨーマンシップが非常に強く発揮され、観客を感動させる度々ある。</p> | <p>・音楽表現は常に幅広く深みがあり、内容も多様である。</p> <p>・フレーズは常に曲線を的確に反映したもので、乱れはほとんど感じられない。</p> <p>・バランスとフレンドのコントローラは常に適切に整えられている。</p> <p>・テンポは常に正確に維持され、その変化のコントロールも柔軟かつ確実で乱れない。</p>                                     | <p>・音質は常に美しく整えられ、乱れが感じられることはほとんどない。</p> <p>・チューニングは正確で、ピッチが不正確な部分はほとんどない。</p> <p>・イントネーションは良くそろえられており、違和感ほとんどない。</p> <p>・リズムミッドコントロールはほとんどどの場面でも適切に行われ、自然な流れが保たれる。</p> <p>・タイミングに対する理解が的確で、乱れることはほとんどない。</p> <p>・フォーカスコントロールは常に適切で、音がバラバラの向きに飛ぶようなことはほとんどない。</p> |         |
| <p>・作品全体において調整されているように感じられるが、調整が不足している部分も少なくない。</p> <p>・作品全体の構成、処理にバラエティーも感じられるが、平淡に感じられる部分もある。</p> <p>・やや、全体的な色彩が単調で、音楽との整合性も不足している。</p> <p>・聴かせ所や見せ場と感じられる部分もあるが、充分な効果を出し得てはいない。</p> <p>・効果的と思える部分はあるが、断片的であり、長続きしない場合が多い。</p> <p>・独創的な解釈、処理がなされていると感じられる部分があるが、多くはない。</p>                             | <p>・音楽・演技者による作品の理解は得られているようだが、観客とのコミュニケーションは十分ではない。</p> <p>・ある程度、音楽・演技者の集中力を感ずる部分もあるが、作品の意図が継続的に伝わらない。</p> <p>・音楽・演技者は作品が持つ感情表現も感じさせているが、観客の感情を操作するには至らない。</p> <p>・ある程度、音楽・演技者のコミュニケーションやシヨーマンシップは発揮されているが、観客を感動させられない場合もある。</p>                           | <p>・音楽表現はある程度なされているが、幅広く不足を単純に感じられる。</p> <p>・フレーズはある程度整えられているが、不足を感じる。</p> <p>・タイミッドコントロールは比較的よく、コントロール不足を感じる。</p> <p>・バランスとフレンドはある程度整えられているが、不足を感じる。</p> <p>・テンポはある程度維持されているが、その変化をコントロールしきれずに乱れる。</p> | <p>・音質は多くの場面で美しく整えられているが、乱れが感じられることもある。</p> <p>・チューニングは正確だが、ピッチが多少にずれを感じる部分もある。</p> <p>・イントネーションは概ねそろっているが、違和感がある部分もある。</p> <p>・リズムミッドコントロールは多くの場合適切だが、流れが滞りやすい。</p> <p>・フォーカスコントロールは多くの場面で良好だが、音の向きがまとまりに欠け、やや散漫することもある。</p>                                    |         |
| <p>・作品全体において調整されているように感じられるが、調整が不足している部分も少なくない。</p> <p>・作品全体の構成、処理にバラエティーも感じられるが、平淡に感じられる部分もある。</p> <p>・やや、全体的な色彩が単調で、音楽との整合性も不足している。</p> <p>・聴かせ所や見せ場と感じられる部分もあるが、充分な効果を出し得てはいない。</p> <p>・効果的と思える部分はあるが、断片的であり、長続きしない場合が多い。</p> <p>・独創的な解釈、処理がなされていると感じられる部分があるが、多くはない。</p>                             | <p>・音楽・演技者による作品の理解は不足しており、観客とのコミュニケーションも不十分である。</p> <p>・音楽・演技者の集中力が不足しており、作品の意図が伝わらない。</p> <p>・音楽・演技者による感情表現はあまり感じられない。</p>  | <p>・音楽表現は常に幅広く深みがあり、内容も多様である。</p> <p>・フレーズは常に曲線を的確に反映したもので、乱れはほとんど感じられない。</p> <p>・バランスとフレンドのコントローラは常に適切に整えられている。</p> <p>・テンポは常に正確に維持され、その変化のコントロールも柔軟かつ確実で乱れない。</p>                                     | <p>・音質は多くの場面で美しく整えられているが、乱れが感じられることもある。</p> <p>・チューニングは正確だが、ピッチが多少にずれを感じる部分もある。</p> <p>・イントネーションは概ねそろっているが、違和感がある部分もある。</p> <p>・リズムミッドコントロールは多くの場合適切だが、流れが滞りやすい。</p> <p>・フォーカスコントロールは多くの場面で良好だが、音の向きがまとまりに欠け、やや散漫することもある。</p>                                    |         |
| <p>・作品全体において調整されているように感じられるが、調整が不足している部分も少なくない。</p> <p>・作品全体の構成、処理、色彩が平坦に感じられる。</p> <p>・聴かせ所や見せ場と感じられる部分があるが、充分な効果を出し得てはいない。</p> <p>・その多くが効果的ではない。</p>   | <p>・音楽・演技者による作品の理解は不十分で、観客に対する意識も希薄である。</p>  | <p>・音楽表現は常に幅広く深みがあり、内容も多様である。</p> <p>・フレーズは常に曲線を的確に反映したもので、乱れはほとんど感じられない。</p> <p>・バランスとフレンドのコントローラは常に適切に整えられている。</p> <p>・テンポは常に正確に維持され、その変化のコントロールも柔軟かつ確実で乱れない。</p>                                     | <p>・音質は多くの場面で美しく整えられているが、不足を感じる。</p> <p>・チューニングはある程度そろっているが、ピッチが多少にずれを感じる部分もある。</p> <p>・イントネーションはある程度そろっているが、違和感がある部分も多い。</p> <p>・リズムミッドコントロールはある程度なされているが、不自然な感じの部分が多い。</p> <p>・フォーカスコントロールはある程度なされているが、音がバラバラと散漫する時間が長い。</p>                                   |         |
| <p>・作品全体が調整されているように感じられず、雑然としている。</p>  | <p>・音楽的に何かを表現しようとしているように感じられない。</p> <p>・フレーズやタイミッドコントロールが設定されているようには聞こえない。</p>   | <p>・音楽表現は常に幅広く深みがあり、内容も多様である。</p> <p>・フレーズは常に曲線を的確に反映したもので、乱れはほとんど感じられない。</p> <p>・バランスとフレンドのコントローラは常に適切に整えられている。</p> <p>・テンポは常に正確に維持され、その変化のコントロールも柔軟かつ確実で乱れない。</p>                                     | <p>・音質は多くの場面で美しく整えられているが、不足を感じる。</p> <p>・チューニングはある程度そろっているが、ピッチが多少にずれを感じる部分もある。</p> <p>・イントネーションはある程度そろっているが、違和感がある部分も多い。</p> <p>・リズムミッドコントロールはある程度なされているが、不自然な感じの部分が多い。</p> <p>・フォーカスコントロールはある程度なされているが、音がバラバラと散漫する時間が長い。</p>                                   |         |



第41回マーチングバンド中国大会  
高等学校・一般の部

音楽と視覚の調和・演技の調和

**作品の全体的調和**

ショー全体のコーディネーションを音楽的な要素と視覚的な要素との結びつきをふまえて総合的に判断する。

**作品の解釈と表現**

ショー全体の解釈と表現を音楽的な要素と視覚的な要素の結びつきをふまえて総合的に判断する。

- ・コーディネーション ショーの流れに「緩急」「強弱」「喜怒哀楽」や「起承転結」を感じさせる変化があるか。  
また、無理のない流れがあるか。クライマックスが表現されているか。  
各セクションの組合せに調和や変化が感じられるか。
- ・音楽と視覚の調和 音楽と視覚が調和されているか。
- ・独創性と多様性 作品が独創性に優れ、なおかつ多様性に富んでいるか。
- ・表現の幅と質 作品が意図するところを理解し、強弱や緩急、喜怒哀楽などの表現に幅をもたせているか。  
また、それらを高めようとしているか。
- ・ミュージシャンシップとショーマンシップ 観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。  
また、観客とのコミュニケーション（伝達）が良好か。
- ・完成度 内容を把握し、ミスやエラーのない演奏・演技になっているか。表現の幅と質が作品の意図するところを理解したものとなっているか。また強弱や緩急、喜怒哀楽などの表現が完成したものとなっているか。

|                            |                           |                          |                          |                           |             |
|----------------------------|---------------------------|--------------------------|--------------------------|---------------------------|-------------|
| 段階1(BOX1)<br>努力を要す<br>60未満 | 段階2(BOX2)<br>ふつう<br>60～69 | 段階3(BOX3)<br>良好<br>70～79 | 段階4(BOX4)<br>優良<br>80～89 | 段階5(BOX5)<br>優秀<br>90～100 | <b>/100</b> |
|                            |                           |                          |                          |                           |             |

**視覚要素（フォーム、ボディ、手具）**

演技の構成がいかにより優れているかを、演技者全体もしくは各セクションに関して判断する。

**演技の質と技術**

演技の質や全体的な技術がいかにより優れているかを、演技者全体もしくは各セクションに関して判断する。

- ・統一性 視覚的構成がいかによりまとまっているか。
- ・視覚的音楽性（フレーズ、解釈、強調）視覚的構成がいかにより音楽的であるか。
- ・表現力 視覚的表現がいかにより豊かであるか。
- ・多様性 視覚的構成がいかにより多様であるか。
- ・同一性 同じ動作がいかにより同じようにできているか。
- ・全般的技術 全般的な動作の技術がいかにより優れているか。
- ・アーティキュレーション 動作のアーティキュレーションがいかによりそろっているか。
- ・鮮明度 動作がいかによりはっきりと、かつ明瞭に行なわれているか。
- ・リカバリー リカバリーがいかにより早い。

|                            |                           |                          |                          |                           |             |
|----------------------------|---------------------------|--------------------------|--------------------------|---------------------------|-------------|
| 段階1(BOX1)<br>努力を要す<br>60未満 | 段階2(BOX2)<br>ふつう<br>60～69 | 段階3(BOX3)<br>良好<br>70～79 | 段階4(BOX4)<br>優良<br>80～89 | 段階5(BOX5)<br>優秀<br>90～100 | <b>/100</b> |
|                            |                           |                          |                          |                           |             |

音楽と視覚の調和・演技の調和 審査基準(クライテリア)

| 作品の全体的調和  | 作品の解釈と表現   | 視覚要素 (フォーム、ボディ、手具)   | 演技の質と技術   |
|---|--|--|---|
| <p>作品全体において調整が行き届いており、違和感はほとんど無い。</p> <p>作品全体の構成、処理は、バラエティーに富んでおり、部分的な処理にも多様性が感じられる。</p> <p>色彩的にも豊かであり、かつ音楽との整合性もあり効果的である。</p> <p>場面ごとに多くの、聴かせ所や見せ場があり、それらが大変うまく強調されており、非常に効果的である。</p> <p>作品全体を通して常に平均的なレベル以上の効果が生み出されており、長い時間観客を引き付ける事に成功している場面が多々ある。</p> <p>ほとんどの場面で、解釈、処理が強調的かつ高度であり、それらが効果的に密接に結びついている。</p> | <p>演奏・演技者による作品の理解は充分かつ高度で、観客とのコミュニケーションは常に円滑で密度も高く行われている。</p> <p>ほとんどの場面で演奏、演技者の集中力は常に高く維持されており、観客は作品の意図を充分理解し楽しむ事が出来る。</p> <p>演奏・演技者による感情表現は幅広く、質的にもバラエティー豊かに表され、観客を度々魅了し感動させる。</p> <p>ほとんどの場面で演奏、演技者のコミュニケーションやショーマンシップが常に強く発揮され、観客が感動する場面が度々ある。</p> | <p>統一性は十分で常にまとまっており、乱れる部分ほとんどない。</p> <p>視覚的構成に音楽が十分に反映しており、違和感を覚えることは少ない。</p> <p>手具が効果的に使用され、かつ音楽を視覚的に表現する効果を十分に発揮しており、違和感があることは少ない。</p> <p>視覚的に豊かな表現がなされ、不足に感じる部分が少ない。</p> <p>多様性に大変富んでおり、状態の変化も常に継続して行われている。</p>                     | <p>常に高い動作の同一性を保ち、不揃いな部分が少ない。</p> <p>ほとんどの場面で継続した技術の優秀性を発揮し、未熟さを感じる部分は少ない。</p> <p>アーティキュレーションは十分整っており、不ぞろいな部分は少ない。</p> <p>動作は常に鮮明で、はっきりとしている。</p> <p>ほとんどの場合、リカバリーは素早く、的確になされる。</p>                    |
| <p>作品全体において調整されている様に見えるが、調整が不足している部分も少なくない。</p> <p>作品全体の構成、処理にバラエティーも感じられるが、平淡に感じられる部分もある。</p> <p>色彩的にも豊かであり、音楽との整合性も感じられるが、違和感がある部分もある。</p> <p>場面ごとに聴かせ所や見せ場があり、効果が強調されているが、効果が限定的である。</p> <p>多くの場面で継続して平均以上の効果を生み出している部分があり、観客を引き付ける事もあるが、それらが緊かたない。</p> <p>随所に独創的な解釈、処理が感じられるが、それが直接効果に繋がらない場合も少しある。</p>     | <p>演奏・演技者による作品の理解は充分で、観客とのコミュニケーションは高いが、伝わりまらな場合がある。</p> <p>多くの場面で演奏、演技者の集中力は安定しているが、意図が継続的に伝わりまらな場合もある。</p> <p>演奏・演技者による感情表現の幅は広く、観客が心を動かされる場面も少なくないが、伝わりまらな場合もある。</p> <p>多くの場面で演奏、演技者のコミュニケーションやショーマンシップは発揮されているが、観客を感動させられない場合もある。</p>              | <p>多くの場面で視覚的に統一され、まとまっているが、乱れる部分時々気になる。</p> <p>多くの場面で視覚的構成に音楽を反映している部分が見られるが、違和感を覚える場面も少しある。</p> <p>多くの場面で手具などが効果的に使用され、音楽を反映した表現が見られるが、違和感がある部分も少しある。</p> <p>多くの部分で豊かな視覚的表現がなされるが、もの足りなさを感じる部分も少しある。</p> <p>多様性は豊かではあるが、単調な部分もある。</p> | <p>動作は概ね同一性を保っているが、不揃いな部分もある。</p> <p>多くの場面で技術の優秀性を示すが、未熟さを感じる場面もある。</p> <p>アーティキュレーションは概ねそろっているが、気になる部分もある。</p> <p>動作は鮮明だが、はっきりしない部分もある。</p> <p>多くの場合、リカバリーは迅速にされるが、時折時局が掛かる場合や不完全なことがある。</p>         |
| <p>作品全体において調整されている様に見えるが、調整が不足している部分も少なくない。</p> <p>作品全体の構成、処理にバラエティーも感じられるが、平淡に感じられる部分もある。</p> <p>やや、全体的な色彩が単調で、音楽との整合性も不足している。</p> <p>聴かせ所や見せ場と感じられる部分もあるが、充分な効果を出し得ていない。</p> <p>効果的と思える部分はあるが、断片的であり、長続きしない場合が多い。</p> <p>独創的な解釈、処理がなされていると感じられる部分があるが、多くはない。</p>  | <p>演奏・演技者による作品の理解は得られているようだが、観客とのコミュニケーションは十分ではない。</p> <p>ある程度、演奏、演技者の集中力を感じる部分もあるが、作品の意図が継続的に伝わりまらな。</p> <p>演奏・演技者は作品が持つ感情表現も感じさせているが、観客の感情を操作するには至らない。</p> <p>ある程度、演奏、演技者のコミュニケーションやショーマンシップは発揮されているが、観客を感動させられない場合もある。</p>                          | <p>ある程度、動作は揃っているが、不揃いな部分が多い。</p> <p>高度な技術の習得を示す部分を感じられるが、全体的に未熟さが見える。</p> <p>整ったアーティキュレーションを感じる部分もあるが、不十分な場面が多い。</p> <p>鮮明な動作を感じる部分もあるが、はっきりしないことが多い。</p> <p>リカバリーはされるが、時間が掛かることが多く、不完全な場合が少なくない。</p>                                  | <p>ある程度、動作は揃っているが、不揃いな部分が多い。</p> <p>高度な技術の習得を示す部分を感じられるが、全体的に未熟さが見える。</p> <p>整ったアーティキュレーションを感じる部分もあるが、不十分な場面が多い。</p> <p>鮮明な動作を感じる部分もあるが、はっきりしないことが多い。</p> <p>リカバリーはされるが、時間が掛かることが多く、不完全な場合が少なくない。</p> |
| <p>作品全体において調整されている部分も不足しているが、違和感も多く感じられる。</p> <p>作品全体の構成、処理、色彩が平坦に感じられる。</p> <p>聴かせ所や見せ場と感じられる部分も不足しており、その多くが効果を発揮していない。</p>  | <p>演奏・演技者による作品の理解は不足しており、観客とのコミュニケーションも十分ではない。</p> <p>演奏・演技者の集中力が不足しており、作品の意図が伝わりまらな。</p> <p>演奏・演技者による感情表現はあまり感じられない。</p>  | <p>動作が揃っていない部分も少なく、それぞれの動きも十分ではない。</p> <p>良好な技術を示すことが少なく、初歩的な範囲から脱しきれていない。</p> <p>アーティキュレーションがそろっておらず、不鮮明である。</p>  | <p>動作が揃っていない部分も少なく、それぞれの動きも十分ではない。</p> <p>良好な技術を示すことが少なく、初歩的な範囲から脱しきれていない。</p> <p>アーティキュレーションがそろっておらず、不鮮明である。</p>   |
| <p>作品全体が調整されている様には感じられず、雑然としている。</p>  | <p>演奏・演技者による作品の理解は未熟で、観客に対する意識も尚薄である。</p>  | <p>統一感が不足しており、まとまりも感じられない。</p> <p>視覚的構成に音楽性を感じられる部分もあまりない。</p> <p>手具などの表現に音楽性を感じる部分も少なく、その効果も感じられない。</p> <p>表現力を感じる事ができず平坦である。</p>   | <p>同じ内容の動作をしているように見える場面が多い。</p> <p>初歩的な動作の技術の習得が不足している。</p>   |



第41回マーチングバンド中国大会  
高等学校・一般の部

管楽器の技術と表現

**管楽器の基礎技術力**

管楽器セクションの基礎技術力がいかに優れているかを、個々のプレーヤーもしくはパート、セクションに関して判断する。

- ・呼吸法  
十分に息が吸えているか。安定したブレスコントロールができているか。  
必要な長さまできちんと息を使えているか。
- ・音質  
無理のない自然な響きが得られているか。それぞれの楽器の特性に合った音色をつくっているか。
- ・音程  
チューニングが正確になされているか。正しいピッチにより旋律、和音とも自然な響きが得られているか。
- ・アーティキュレーション  
曲想に合っているか。十分な多様性があるか。よく統一されているか。
- ・テンポ及びタイミング  
ある一定のテンポ感を安心して感じることができるか。テンポ・タイミングがどの程度正確か。

|                            |                           |                          |                          |                          |            |
|----------------------------|---------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|------------|
| 段階1(BOX1)<br>努力を要す<br>30未満 | 段階2(BOX2)<br>ふつう<br>30～34 | 段階3(BOX3)<br>良好<br>35～39 | 段階4(BOX4)<br>優良<br>40～44 | 段階5(BOX5)<br>優秀<br>45～50 | <b>/50</b> |
|----------------------------|---------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|------------|

**管楽器の表現力**

管楽器セクションの表現力がいかに優れているかを、個々のプレーヤーもしくはパート、セクションに関して判断する。

- ・表現方法とフレージング  
音楽的表現がいかに幅広く、多様で音楽の内容をよく理解しているか。  
曲想に合ったフレージングがなされ、それが統一されているか。
- ・ダイナミックレンジ  
音量に関する解釈が統一されているか。曲想に合った強弱の付け方ができているか。
- ・バランスとブレンド  
全体を通じて高音楽器から低音楽器までバランス良くブレンドされているか。  
旋律やソロとハーモニーのバランスが良く、明瞭であるか。
- ・スタイル  
楽曲のジャンルの特徴や、楽曲そのものの個性を演奏者がいかに理解し表現しているか。
- ・ミュージシャンシップ  
観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。

|                            |                           |                          |                          |                          |            |
|----------------------------|---------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|------------|
| 段階1(BOX1)<br>努力を要す<br>30未満 | 段階2(BOX2)<br>ふつう<br>30～34 | 段階3(BOX3)<br>良好<br>35～39 | 段階4(BOX4)<br>優良<br>40～44 | 段階5(BOX5)<br>優秀<br>45～50 | <b>/50</b> |
|----------------------------|---------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|------------|

## 管楽器の技術と表現 審査基準(クライテリア)

|      | 基礎技術力   | 表現力  |
|------|---|--|
| 段階 5 | <ul style="list-style-type: none"> <li>呼吸法や発音、リリースはほとんど完璧に統一されている。</li> <li>常にリラックスした状態で安定したプレスサポートを駆使し、強弱・音域・音色変化の高度な要求にも明瞭かつ瞬時に対応している。</li> <li>音質は豊かで繊細かつ力強い。</li> <li>各楽器の特性に合った音色を理解しており、乱れることはほとんどない。</li> <li>アンブシュアの安定により自然な響きが得られており、多彩な音色を持っている。</li> <li>音程はほとんどの場面で完璧に維持され、確固たるイヤートレーニングを支えられた正確なピッチコントロールが美しいイントネーションとハーモニーを生み出している。</li> <li>アーティキュレーションはほとんどの場面で統一され、バリエーションも豊富で、曲想に合わせて適切に使用されている。</li> <li>テンポやタイミングに関する解釈はほとんどの場面で統一されており、一定のテンポ感を安心して感じることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>表現方法は多彩で幅広く、楽曲に関する深い理解と音楽性をほとんどの場面において感じ取ることができる。また、フレージングは音楽的で良く統一されている。</li> <li>ダイナミックレンジは非常に幅広く、ほとんど乱れることなくコントロールされている。また、強弱の設定も適切で解釈もほぼ統一されている。</li> <li>バランスは常に維持され、p や f を演奏する場合でも個々の音が飛び出すことはほとんどなく、豊かにブレンドしている。また、メロディーと伴奏のバランスも良い。</li> <li>楽曲のスタイルや特徴を十分に理解している。また、音楽の個性を活かした表現を試み、ほとんどの場面で成功している。</li> <li>ミュージシャンシップに満ちており、観客にその音楽をアピールしようとする姿勢が強く感じられる。また、ほとんどの場面において奏者の意図する内容が明瞭に伝わる。</li> </ul> |
| 段階 4 | <ul style="list-style-type: none"> <li>呼吸法や発音、リリースは多くの場面で統一されているが、難しいフレーズを演奏する場合などにプレスサポートの乱れを感じることもある。</li> <li>音質は多くの場面において良好で楽器本来の音色が得られているが、ダイナミクス・音域等の高度な要求がある時に炸裂音や音色の劣化がみられることがある。</li> <li>音程は多くの場面で良く維持されているが、イントネーションやハーモニーに乱れを感じることもある。</li> <li>アーティキュレーションは多くの場面で統一されているが、違和感がある部分もある。</li> <li>テンポやタイミングに関する解釈は多くの場面で統一されているが、乱れを感じることもある。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>表現方法は幅広いが、時折楽曲の理解が不十分に感じられる場面もある。また、フレージングも音楽的で適切だが、それらが損なわれたり、乱れたりする場面もある。</li> <li>ダイナミックレンジは広く、多くの場面でコントロールされているが、乱れを感じる部分もある。また、強弱の設定は概ね適切だが、不自然に感じることもある。</li> <li>バランスは多くの場面で維持されるが、個々の音がパートにブレンドしないこともある。また、メロディーと伴奏のバランスも概ね良いが、メロディーが埋もれてしまうこともある。</li> <li>楽曲のスタイルや特徴を概ね理解し、その個性を活かした表現を試みているが、成功しないこともある。</li> <li>ミュージシャンシップを感じる事ができ、観客にその音楽をアピールしようとする姿勢が感じられるが、奏者の意図する内容が伝わり切らないこともある。</li> </ul>  |
| 段階 3 | <ul style="list-style-type: none"> <li>呼吸法や発音、リリースはある程度そろっているが、プレスサポートが乱れるため不安定な響きや荒々しい音色がしばしば聞かれる。</li> <li>音質を良好に維持しようとする姿勢は感じられるが、f (フォルテ) では荒々しくなり、p (ピアノ) では弱々しい響きになりやすく、音色にバラつきも生じる。</li> <li>音程はある程度そろえられているが、ピッチコントロールが弱く、イントネーションやハーモニーがしばしば乱れる。</li> <li>アーティキュレーションをそろえる意志は感じられるが、統一感が弱く、不明瞭な印象を受ける。</li> <li>テンポやタイミングを合わせる意志は感じられるが、その方法やテクニックの問題から乱れを生じる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>表現方法にある程度の幅を感じ取れるが、楽曲の理解に不足を感じる。また、フレージングは音楽的にやや不十分で乱れることが多い。</li> <li>ダイナミックレンジはやや狭く、コントロール不足も目立つ。また、強弱の設定はある程度なされているが、解釈に統一感がなく、違和感がある。</li> <li>バランスはある程度維持されているが、個々の音がパートにブレンドしないことが多い。また、バランスの問題からメロディーが不明瞭に感じられる場面が多い。</li> <li>楽曲のスタイルや特徴をある程度理解しているように思われるが、その表現は成功しないことが多い。</li> <li>ミュージシャンシップはやや弱く、観客にその音楽をアピールしようとする意図する内容が伝わり切らない。</li> </ul>  |
| 段階 2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>呼吸法に関する理解が不十分で、ムダな力みのため、必要なプレスサポートが得られていない。また、発音やリリースをそろえる意識も弱い。</li> <li>音質を良好に維持しようとする意志が弱く、プレスやアンブシュアの不安定さによる個々の音色のバラつきも目立つ。</li> <li>チューニング自体が不完全であり、耳を使って一定の音程を保つトレーニングが不足している。</li> <li>アーティキュレーションに関する理解が不十分で、テンポやタイミングをそろえる意識やトレーニングも不足している。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>表現方法の幅が狭く、楽曲の理解も浅く不十分である。また、演奏の努力は認められるが音楽的な表現が不足しており、フレージングに関する認識もあまり感じられない。</li> <li>ダイナミックレンジは狭く、あまりコントロールもされていない。また、強弱の設定も不明瞭である。</li> <li>バランスを維持しようとする意識が希薄なため、メロディーラインが不明瞭である。また、個々の音の飛び出しが著しく目立ち、パートにブレンドしない。</li> <li>楽曲のスタイルや特徴に関する理解が浅く、不十分である。また、奏者の意図も観客にうまく伝わらない。</li> </ul>  |
| 段階 1 | <ul style="list-style-type: none"> <li>呼吸法に統一性が認められず、楽器本来の音色が聞かれない。</li> <li>プレストレーニングやアンブシュアの改善が必要である。</li> <li>チューニングができておらず、音程を合わせようとしているようには感じられない。</li> <li>テンポやタイミングに関する個々の理解が認められず、演奏がまちまちでそろわない。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>表現方法やフレージングに関して、統一された解釈があるようには感じられない。</li> <li>ダイナミクスやバランスに関する認識があるようには感じられない。</li> <li>楽曲に関する理解が感じられず、何かを伝えようとする姿勢が見受けられない。</li> </ul>   |



第41回マーチングバンド中国大会  
高等学校・一般の部

## 打楽器の技術と表現

### 基礎技術力

打楽器セクションの基礎技術力がどの程度優れているかを、個々のプレーヤーもしくはパート、セクションに関して判断する。

- ・奏法の統一と適応  
グリップ、フォーム、スティックハイトがどの程度統一されているか。  
音楽の音作り  
楽器本来の良い音が出せているかどうか。(奏法的に導き出せているか。調整で導き出せているか。)  
楽曲に対し、適した楽器、道具(スティック等)を使用しているか。会場の音響を考慮した音作り(調整)がされているか。  
各楽器の音程、音域がバランス良く決められているか。
- ・ピッチの正確さ  
同じ楽器間で個々のピッチがどの程度正確か。楽曲の特徴に配慮した音程、音域になっているか。
- ・アーティキュレーションの明確さ  
同じ内容の演奏をしていると思われる演奏が、どの程度同じように演奏されているか。  
演奏上のミス、くせ、手順、アクセント、中断等がいかに少ないか。
- ・テンポ及びタイミング  
ある一定のテンポ感を安心して感じることができるか。テンポ、タイミングがどの程度正確か。

| 段階1(BOX1) | 段階2(BOX2) | 段階3(BOX3) | 段階4(BOX4) | 段階5(BOX5) | /50 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----|
| 努力を要す     | ふつう       | 良好        | 優良        | 優秀        |     |
| 30未満      | 30~34     | 35~39     | 40~44     | 45~50     |     |

### 表現力

打楽器セクションの表現力がどの程度優れているかを、個々のプレーヤーもしくはパート、セクションに関して判断する。

#### ○表現方法とフレージング

- ・音楽的表現がいかに幅広く多様で、音楽の内容をよく理解しているか。また、曲想にあったフレージングがなされているか、統一されているか。

#### ○ダイナミックレンジ

- ・音量に関しての解釈が統一されているか。
- ・曲想を考慮した強弱の付け方ができているか。

#### ○バランス

- ・各楽器間の音量のバランスが、的確に決められているか。

#### ○スタイル

楽曲のジャンルの特徴や、楽曲そのものの個性を、演奏者がどの程度理解し表現しているか。

#### ○ミュージシャンシップ

- ・観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。

| 段階1(BOX1) | 段階2(BOX2) | 段階3(BOX3) | 段階4(BOX4) | 段階5(BOX5) | /50 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----|
| 努力を要す     | ふつう       | 良好        | 優良        | 優秀        |     |
| 30未満      | 30~34     | 35~39     | 40~44     | 45~50     |     |

## 打楽器の技術と表現 審査基準(クライテリア)

|      | 作品の全体的調和   | 作品の解釈と表現   |
|------|--|--|
| 段階 5 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・奏法はほぼ完全に統一されており楽曲に対する配慮も適切で個人差を見つけないのはむしろいい。また個々の音色、音量に差がほとんどなく、全体的なアーティキュレーションの明確性に大きく貢献している。</li> <li>・楽器の特性を引き出す音作りがほぼ完璧になされており、音域が効果的に設定されている。</li> <li>・同じ楽器間でのチューニングはほとんど完璧に調整されており、楽曲に対する配慮も適切で違和感な場面はほとんどない。</li> <li>・楽譜の解釈はほぼ完全に統一され、アーティキュレーションのミスはほとんど感じられない。</li> <li>・テンポ、タイミングに関する解釈が統一されておりこれらのミスはほとんどない。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現方法は多彩で幅広く、楽曲に対する深い理解と音楽性をほとんどの場面において感じ取ることができる。フレージングは音楽的で良く統一されている。</li> <li>・ダイナミックレンジは非常に幅広く、ほとんど乱れることなくコントロールされている。また、強弱の設定も適切で解釈もほぼ統一されている。</li> <li>・バランスは常に維持され、p p や f f を演奏する場合でも乱れることはほとんどない。また、パートやセクションとしての豊かなサウンドを形成している。</li> <li>・楽曲のスタイルや特徴を十分に理解している。音楽の個性を活かした表現を試み、ほとんどの場面で成功している。</li> <li>・ミュージシャンシップに満ちており、観客にその音楽をアピールしようとする姿勢が強く感じられる。また、ほとんどの場面において奏者の意図する内容が明瞭に伝わる。</li> </ul> |
| 段階 4 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・奏法は多くの場面で統一され、楽曲に対する配慮もなされており個人差はほとんど見受けられない。また個々の音色、音量等も良くそろっているが、統一性の不完全さから、時折乱れを感じることもある。</li> <li>・楽器の特性を引き出す音作りがある程度なされており、音域は概ねバランス良く設定されている。</li> <li>・楽譜の解釈は多くの場面で統一されているが、アーティキュレーションのミスが時折ある。</li> <li>・同じ楽器間でのチューニングは概ねそろっているが、楽曲に対し適切でない場合が時折、見受けられる。</li> <li>・テンポ、タイミングに関する解釈は多くの場面で統一されているが、時折乱れを感じることもある。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現方法は幅広いが、時折楽曲の理解が不十分に感じられる場面もある。また、フレージングも音楽的で適切だが、それらが損なわれたり、乱れたりする場面もある。</li> <li>・ダイナミックレンジは広く、多くの場面でコントロールされているが、乱れを感じる部分もある。また、強弱の設定は概ね適切だが、不自然に感じることもある。</li> <li>・バランスは多くの場面でうまく維持されるが、やや乱れてパートやセクションでうまくそろわないこともある。</li> <li>・楽曲のスタイルや特徴を概ね理解し、その個性を活かした表現を試みているが、成功しないこともある。</li> <li>・ミュージシャンシップを感じる事ができ、観客にその音楽をアピールしようとする姿勢が感じられるが、奏者の意図する内容が伝わり切らないこともある。</li> </ul>                         |
| 段階 3 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・奏法はある程度、統一されているが、グリップ、フォーム、スティックハイト等の調整に不足を感じる。</li> <li>・楽器の特性をある程度引き出しているが、若干の違和感がある。</li> <li>・楽譜の解釈はある程度統一されているが、アーティキュレーションにミスが生じる。</li> <li>・同じ楽器内でのチューニングはある程度揃えられているが十分ではない。</li> <li>・テンポ、タイミングに関する解釈はある程度統一されているが、不正確な部分が少なくない。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現方法にある程度の幅を感じ取れるが、楽曲の理解に不足を感じる。フレージングは音楽的にやや不十分で乱れることが多い。</li> <li>・ダイナミックレンジはやや狭く、コントロール不足も目立つ。強弱の設定はある程度なされているが、解釈に統一感がなく違和感がある。</li> <li>・バランスはある程度維持されているが乱れも目立ち、パートやセクションでそろわないことが多い。</li> <li>・楽曲のスタイルや特徴をある程度理解しているように思われるが、その表現に成功しないことが多い。</li> <li>・ミュージシャンシップはやや弱く、観客にその音楽をアピールしようとするが意図する内容が伝わり切らない。</li> </ul>   |
| 段階 2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・奏法に関する基準が不十分で、グリップ、フォーム、スティックハイト等が不揃いなため、個々の音色、音量に違いが出てしまっている。</li> <li>・使用している楽器の特性を引き出そうとする努力が不足しており、楽曲の特徴を考慮した楽器の音色に不自然さを感じる。</li> <li>・楽譜の内容に関する解釈が不十分で、ミスが多いため明瞭さが不十分である。</li> <li>・同じ楽器内でのチューニングにバラツキが感じられる。</li> <li>・テンポ、タイミングに関する解釈が不十分で、正確さに欠ける。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現方法の幅が狭く、楽曲の理解も浅く不十分である。演奏の努力は認められるが音楽的な表現が不足しており、フレージングに対する認識もあまり感じられない。</li> <li>・ダイナミックレンジは狭く、あまりコントロールもされていない。強弱の設定も不明瞭である。</li> <li>・バランス設定が的確に決められていないため、各楽器のサウンドにバラツキを感じる。</li> <li>・楽曲のスタイルや特徴に関する理解が浅く、不十分である。奏者の意図も観客にうまく伝わらない。</li> </ul>  |
| 段階 1 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・奏法に関して基準があるように見受けられない。またグリップ、フォーム、スティックハイト等が不揃いで、統一感が感じられない。</li> <li>・使用している楽器の特性が全く引き出されていない。また、楽曲の特徴を考慮した楽器の音色が引き出せていない。</li> <li>・楽譜の内容に関して個々の解釈、演奏がまちまちで明瞭さがない。</li> <li>・同じ楽器内でのチューニングが全くそろっていない</li> <li>・テンポ、タイミング等の解釈に個人差がある。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現方法やフレージングに関して、統一された解釈があるようには感じられない。</li> <li>・ダイナミクスやバランスに対する認識があるようには感じられない。</li> <li>・楽曲に対する理解が感じられず、何かを伝えようとする姿勢が見受けられない。</li> </ul>  |





第41回マーチングバンド中国大会  
高等学校・一般の部

動きの技術と表現・カラーガードの技術と表現

**基礎技術力**

演技者の基礎技術力がいかに優れているかを、カラーガードの技術を含め、個々のプレーヤーもしくはグループに関して判断する。(すべての動くセクションを対象としてサンプリングする)

**達成度と表現力**

演技者の表現力がいかに優れているかを、カラーガードの技術を含め、個々のプレーヤーもしくはグループに関して判断する。(すべての動くセクションを対象としてサンプリングする)

- ・スタイルの統一と適応 FM、RM、MT、停止姿勢、ターン方法等が統一されているか。また、その動作が演奏することに適しているか。
- ・動作の転換とタイミング 全ての連続動作が正確でスムーズに行われているか。
- ・楽器、手具等の保持および使い方 演奏・演技を行うにあたり楽器や手具等が適切に使われているか。
- ・リカバリー能力 ミスに対して適切な対応ができていかどうか。
- ・列、および間隔のそろえ方 列をそろえるにあたり、その基準を理解しており、その上で揃えられているか。また、間隔(インターバル・ディスタンス)の取り方を理解しているか。
- ・ボディーワーク 演奏されている音楽に適した表現がなされているか。
- ・手具等の表現 手具の扱い方や振付けが音楽に適した表現となっているか。
- ・ショーマンシップとコミュニケーション 観客を意識し、アピールしようとする姿勢が一貫しているか。また、表現を通して観客との対話がなされているか。

|           |           |           |           |           |             |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------------|
| 段階1(BOX1) | 段階2(BOX2) | 段階3(BOX3) | 段階4(BOX4) | 段階5(BOX5) | <b>/100</b> |
| 努力を要す     | ふつう       | 良好        | 優良        | 優秀        |             |
| 60未満      | 60~69     | 70~79     | 80~89     | 90~100    |             |

**基礎技術力**

カラーガードの技術力や表現力がいかに優れているかを、個々のプレーヤーもしくはパート、セクションに関して判断する。

**表現方法**

カラーガードの表現方法がいかに優れているかを判断する

- ・スタイル カラーガード全体としてのスタイルが、統一されているか。
- ・技術 身体に関すること、動作、手具の扱いを、理解し実施しているか。
- ・ポジション 演技中の身体、手具のポジションが統一されているか。
- ・タイミング 動作、手具操作のタイミングが一致しているか。
- ・トレーニング方法 ショーを適切に表現するために必要なトレーニングがされているか。
- ・リカバリー ミスに対して適切な対応ができていかどうか。
- ・表現 表現方法に独創性、一貫性があり、音楽を的確に理解しているか。
- ・身体の形や動き、手具の利用 ボディーワーク、ダンステクニック、フラッグ、ウェポン、その他手具が噛み合っていて、その上で、楽曲に合っているか。
- ・音楽性 ショーを構成する音楽に対して、適切に理解して反映しているか。
- ・多様性 視覚的に表現する様々な要素が、多様であるか。
- ・表現方法 身体の形や動き、手具の利用、音楽性、多様性を表現する方法が適切であるか。
- ・貢献度 表現方法が適切に完成されているか。

**(注意)カラーガードがないチームについてはこのキャプションは評価せず、700点満点を平均する**

|           |           |           |           |           |             |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------------|
| 段階1(BOX1) | 段階2(BOX2) | 段階3(BOX3) | 段階4(BOX4) | 段階5(BOX5) | <b>/100</b> |
| 努力を要す     | ふつう       | 良好        | 優良        | 優秀        |             |
| 60未満      | 60~69     | 70~79     | 80~89     | 90~100    |             |

動きの技術と表現・カラーガードの技術と表現 審査基準(クワイアリア)

|      | 基礎技術力   | 達成度と表現力   | 基礎技術力   | 達成度と表現力   |
|------|---|---|---|---|
| 段階 5 | <ul style="list-style-type: none"> <li>姿勢、動作等のスタイルはほとんど統一されており洗練されている。</li> <li>動作、タイミングが良くそろっている。</li> <li>楽器、手具等の持ち方、操作の仕方がほとんど統一されており洗練されている。</li> <li>ミスのリカバリーが早く正確である。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>列や間隔の乱れがほとんどなく、あつたとしても気にならない程度である。</li> <li>ボディワークの表現は、ほとんどが音楽に適しており、すばらしい。</li> <li>手具の表現は、ほとんどが音楽に適しており、すばらしい。</li> <li>シヨーマップシッパが高く、音楽に最も適した表現が良くできており、アピール度も高く聴感できる。</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>スタイルは十分に統一されている。</li> <li>身体や動作、手具の扱いの理解の度合いが高く、技術的に大変優れている。</li> <li>身体や手具のポジションは統一されており、ミスはほとんどない。</li> <li>動作や手具操作のタイミングは一致しており、ミスはほとんどない。</li> <li>シヨ어의内容を適切に表現するためのトレーニングが十分されており、ほとんどの場合において大変優れた表現がなされている。</li> <li>ミスのリカバリーが早く正確である。</li> </ul>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>表現方法はほとんどの場合で独創的で音楽が的確に理解されている。</li> <li>身体の色や動き、手具の操作は、ほとんどの場合でかみ合っており、音楽的な違和感ほとんどない。</li> <li>シヨ어를構成する音楽に対して、ほとんどの場合で適切な反映が行われており、不適切だと感じる場面はほとんどない。</li> <li>視覚的に表現する様々な要素は豊富で多様性が高い。</li> <li>ほとんどの場合において表現は適切で違和感ほとんどない。</li> <li>表現方法の完成度は非常に高く、ほとんどの場合でシヨー全体に良く貢献している。</li> </ul>                             |
| 段階 4 | <ul style="list-style-type: none"> <li>姿勢、動作等のスタイルは多くの場合で統一されており演奏演技するのに適した動作になっているがばらつきが生じる部分もある。</li> <li>動作、タイミングは多くの場合でそろっているが、細かいところではばらつきが生じる部分もある。</li> <li>楽器、手具等の持ち方、操作の仕方は多くの場合で統一されており、かつ演奏演技に適しているが、ばらつきが生じる部分もある。</li> <li>ミスのリカバリー速度は普通であるが、正確である。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>列や間隔の乱れがあまりなく整理されているが、クワイアリング不足の部分もある。</li> <li>ボディワークの表現は、多くの場合で音楽に適しているが時折乱れる事がある。</li> <li>手具の表現は、多くの場合で音楽に適しているが時折乱れる事がある。</li> <li>多くの場合で音楽に適した表現ができており、アピール度も高いが違和感を感じる部分もある。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>スタイルは統一されているが、まれに徹底されていない部分がある。</li> <li>身体や動作、手具の扱いの理解は十分、技術的なレベルは高い。</li> <li>身体や手具のポジションはそろっており、ミスは少ない。</li> <li>動作や手具操作のタイミングはそろっており、ミスは少ない。</li> <li>シヨ어의内容を適切に表現するためのトレーニングが十分されており、多くの場合で優れた表現がなされている。</li> <li>ミスのリカバリー速度は普通であるが、正確である。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>表現方法は多くの場合で、独創的で音楽に対する理解も全体的にはなされているが、まれに違和感がある。</li> <li>身体の色や動き、手具の操作は、多くの場合でかみ合っており、まれに違和感がある。</li> <li>シヨ어를構成する音楽に対して、多くの場合で適切に反映されているが、まれに違和感がある。</li> <li>視覚的に表現する様々な要素が複数あり多様である。</li> <li>多くの場合で表現は適切であるがまれに違和感がある。</li> <li>表現方法の完成度は高く多くの場合でシヨーに貢献しているがまれに違和感がある。</li> </ul>                               |
| 段階 3 | <ul style="list-style-type: none"> <li>姿勢、動作等のスタイルを統一しようとしている基準は認識でき、演奏演技するのに、ある程度適した動作になっているが、ふたつろい部分が見受けられる。</li> <li>動作、タイミングは理解しているようだが、ふたつろい部分が見受けられる。</li> <li>楽器、手具等の持ち方、操作の仕方は認識でき、演奏演技には、ある程度適しているがふたつろい部分が見受けられる。</li> <li>ミスのリカバリーが遅い。</li> </ul>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>列や間隔を揃えようとする意識が見受けられるがクワイアリング不足である。</li> <li>ボディワークの表現は、ある程度音楽に適しているが違和感な部分も見受けられる。</li> <li>手具の表現は、ある程度音楽に適しているが違和感な部分も見受けられる。</li> <li>音楽のある程度認識しているが、アピール度が十分ではないため表現不足を感じる。</li> </ul>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>スタイルはほぼ統一されているが、不十分な時が多い。</li> <li>身体や動作、手具の扱いを理解し演技しているが、十分でない場面がある。</li> <li>動作や手具のポジションはそろっているが、ミスが多い。</li> <li>動作や手具操作のタイミングはそろっているが、ミスが多い。</li> <li>シヨ어의内容を適切に表現するためのトレーニングがなされているが、十分でない場面が多い。</li> <li>ミスのリカバリーが遅い。</li> </ul>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>表現方法にある程度、一貫性を感じる事は多く、音楽を理解されている部分も多いが、長続きしない。</li> <li>身体の色や動き、手具の操作は、ある程度かみ合っており、音楽とも合っているが、不適切に感じる部分が多い。</li> <li>シヨ어를構成する音楽に対して、ある程度適切に反映されているが、時折不適切に感じる。</li> <li>視覚的に表現する様々な要素は限られており、あまり多様ではない。</li> <li>ある程度、表現方法は適切であるが不適切に感じる場面もある。</li> <li>表現方法の完成度はある程度高く、シヨー全体への貢献もある程度見受けられる場面もあるが不足を感じる。</li> </ul> |
| 段階 2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>姿勢、動作等のスタイルにおいて統一しようとしている基準は見受けられるが、不揃いな部分が目立ち統一感が弱い。</li> <li>また演奏演技に適した動作になりきれしていない。</li> <li>動作、タイミングを合わせようとする努力は時折見受けられるが不十分である。</li> <li>楽器、手具等の持ち方、操作を統一しようとする基準は見受けられるが、不揃いかな目立つ。</li> <li>ミスを自覚しているがリカバリーしていない。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>列や間隔を揃えようとする意識が弱いめきれいにそろわない。</li> <li>ボディワークの表現は、不揃いな部分が目立ち、表現力に欠ける。</li> <li>手具の表現は、ふたつろいが目立ち、表現力に欠ける。</li> <li>音楽に合わせて表現しようとする意識やアピール度が弱い。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>統一されたスタイルがあるが、不徹底である。</li> <li>身体や動作のこを若干理解し演技しているようであるが、理解の度合いは浅い</li> <li>動作や手具のポジションが決められているようであるが、不徹底である。</li> <li>動作や手具操作のタイミングがあまりそろっていない。</li> <li>ミスを自覚しているがリカバリーしていない。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>表現方法に時折、脈絡を感じる部分があるが不足している。</li> <li>音楽を理解している部分が少ない。</li> <li>身体の色や動き、手具の操作が、あまり音楽とかがみ合っていない。</li> <li>視覚的に表現する様々な要素が不足している。</li> </ul>   |
| 段階 1 | <ul style="list-style-type: none"> <li>姿勢、動作等のスタイルが全く統一されていない。</li> <li>また演奏演技するのに適した動作になっていない。</li> <li>動作、タイミングが全くバラバラである。</li> <li>楽器、手具等の持ち方、操作の仕方が統一されており演奏演技するのに適していない。</li> <li>ミスを自覚していない。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>列や間隔を揃えようとする意識があるように見受けられない。</li> <li>音楽に合わせて表現しようとする意識があるように見受けられない。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>カラーガードとしての統一されたスタイルが存在するようには見受けられない。</li> <li>身体や動作のこを理解し演技しているようには感じられない。</li> <li>身体や手具の持ち方、操作の仕方が全く統一されており演奏演技するに適していない。</li> <li>動作や手具操作の、タイミングが全くバラバラである。</li> <li>ミスを自覚していない。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>表現方法に一貫性がなく、音楽を理解しているとは感じられない。</li> <li>身体の色や動き、手具の操作が、かみ合っていない。</li> <li>視覚的に表現する様々な要素があるように感じられない。</li> </ul>  |